

令和3年度 第1回大阪市障がい者施策推進協議会  
議事録

日 時 : 令和3年9月10日(金) 午後2時から午後3時30分まで  
会 場 : 大阪市役所 屋上階 P1 共通会議室  
出席委員 : 松端会長、北野副会長、相田委員、板垣委員(Web)、川越委員、  
栄委員(Web)、潮谷委員、手嶋委員、廣田委員、三田委員(Web)、宮川委員  
(Web)、安原委員、山本委員(Web)、吉村委員(Web)

司会(障がい福祉課 村田) <開会>  
出海局長 <あいさつ>  
司会 <出席者紹介>  
<資料確認等>  
八木課長 <会長選出>  
<退任委員・新任委員紹介>

松端会長

それでは皆さん、改めましてましてよろしくお願ひします。  
お手元の次第に沿って進めていきたいと思ひます。  
まず、この議題一番の体制について、よろしくお願ひします。

八木障がい福祉課長

<議題1, 2 資料1, 2 説明>

松端会長

ありがとうございました。  
全体の委員、それから、各部会の委員の説明。  
いかがでしょうか何か質問やご意見ございませんでしょうか。  
よろしいですかね。  
それでは、次が、その他の報告に入ってよろしいでしょうか。  
まず一つ目ですね、大阪市障がい者施策推進協議会各部会の活動方針についてということ  
でお願いします。

山本障がい福祉課長代理

<議題3(報告事項) 大阪市障がい者施策推進協議会各部会の活動方針について

### 資料3 説明＞

松端会長

ありがとうございました。

各部会の検討課題とスケジュールということで、全部で5つありますけど、それぞれ2回ずつを予定されているということです。

一番早いので、差別解消部会が9月27日、それから10月中に実施するということがいかがでしょう。

何か質問ございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

では次ですね、2つ目の報告事項ですね、障がい児の新たな移行調整の枠組みについてということでお願いします。

山川障がい支援課長

＜議題3（報告事項）障がい児の新たな移行調整の枠組みについて

### 資料4 説明＞

松端会長

ありがとうございました。

障がい児、18歳を超えて成人。

18歳を超えてから、ずっと児童の施設に入所し続けている状態があるので、これを令和5年末までを目途に解消していきましようということでもいいですかね。

いかがでしょうか、何か質問なりご意見ございませんでしょうか。

大阪市としては、地域移行促進コーディネーターの配置と、グループホームの設置を中心に進め、18歳以上66名いた方のうち27名と新たに18歳を超えた人も42名が移行している。

現時点で41名残っていらっしゃるということですかね。

という状況ですけれどもいかがでしょうか。

乱暴に施設から出ていけば良いということではないです。

地域生活をちゃんと、支えるというサービスとセットでないといけない。

これの検討は、今の部会で言うところの部会で検討するのですか。

特に部会で検討という訳ではないのでしょうか。

山川障がい支援課長

この間、自立支援部会の方で、ご検討もいただいております。

松端会長

自立支援部会のテーマになるのですかね。

成人施設からの地域移行はもちろんずっとこの間続いていますけれども、児童施設で成人になった方の地域生活への移行が、いよいよ待たなしになってきたということですよね。いかがでしょうか。何かございませんでしょうか。

よろしいですか。

もしお気付きの点がありましたら、また後程おっしゃっていただければと思いますので。

次、報告事項の4つ目ですね

大阪市手話に関する施策の推進方針の改定についてということをお願いします。

山本障がい福祉課長代理

<議題3（報告事項）「大阪市手話に関する施策の推進方針」の改訂について

資料5-1, 5-2, 5-3, 5-4 説明>

松端会長

ありがとうございました。

手話に関する施策推進方針について、この間、検討会議を立ち上げて、そこでの検討を踏まえた上で、改定したということですかね。

この検討会議は潮谷さんに入ってもらっているのですかね、何かございますか。

潮谷委員

ただいま大阪市の方から報告があった通りではあるのですが、大きな改定としては、一つはタブレットが全区の方に配置されたということが続けられています。

ただ、なかなか窓口対応の中で、使いにくさだったりということもありますので、また、窓口の方であったり、各区への啓発ということも重要だというふうに考えております。

それと一部の区において、手話通訳者の窓口設置ということも行われておりますけど、全区にということ、目指していく方向性としてはあるのかなというふうに思っています。

学校との連携というところが一つ課題にはなっておりますけど、各小学校・中学校で、取り組みが様々行われておりますけどそういったところの好事例というものを、もう少し集めて、また各区の中において広めていくということが必要ではないかというふうに考えております。

電話リレーサービスであるとか、Net119 であるとか、また、聴覚障がい者、情報受信装置など、ICTの部分というのがどんどん出てきますので、こういうことについての情報収集というのは、いつも行いながら、そういった状況に合わせて、この推進方針の検討会議というの、継続的にやっていくべきじゃないかなというふうに思っています。

一番大きな課題はやはり奉仕員・通訳者の養成事業が減っておりますのでそういったところを、コロナ禍に合わせて、どのように開くかというところが課題ではないかというふうに

考えております。

今回、ちょっと廣田さんの方にもご参加いただいておりますので補足で何かあればお願いします。

廣田委員

先ほどコロナの関係で、ワクチン接種のことで、大阪市保健所、手嶋さんもお出席いただいて、話をする機会を設けていただきありがとうございました。

スムーズに受けることができました。

また、65歳以下の方がまだスムーズにワクチン接種の予約申込が出来ず、ファックスもなかなか通じないという状況が発生しているようです。

そういうことが課題ということですが。

それともう一つ確認したいことがあるのですが、登録通訳者とはどこまで理解されているのかちょっとよくわかりませんが、登録通訳者と専任通訳者がいます。

専任通訳者は専門的知識を持ち高度技術を持っている方です。

例えば医療機関で、命に関わるような手術といった専門的の高度技術が必要です。

そういう場合は専任通訳者が通訳を行っています。

学校の懇談会というような内容は、登録通訳者で内容に応じては専任通訳者なのか登録通訳者なのかという適切な役割に分けています。

それを理解していただけたら嬉しいです。

もう一つ、手話通訳者が高齢化してきています。

若い人が来ないのです。報酬の面で安いからなのか身分保障も不安定なのかもしれないですけれども、全国的な課題にもなっています。

ヘルパーもそうなのです。

ヘルパーも高齢者で支援する側が高齢化してきています。

若い人が通訳できる人材確保が欲しいなと思いますが、なかなか現実的に難しいです。

報酬の面も、言い方が悪いのですが、大阪は全国的に一番安いです。1時間 2,500円とか3,000円の金額は他の県のことですが、身分保障が不安定の状況では大阪市は通訳が育たないと思っています。

それと、通訳者になる、なった後、もっとスキルアップできる場を、研修の場を増やす必要があります。

それが、本当に足りないです。

ろうあ者にとってわかりづらだけでなく、さらにスキルアップのための研修の場を開いて欲しいと思っています。

松端会長

ありがとうございました。

通訳者の配置をちゃんと進めるといふことと、それから通訳者がちゃんと、数として揃っていないといけないのですが、数も足りないといふことと、それから現に活躍されている通訳の方も高齢化してきて若い人の参加が少ない。

その最大の原因は大阪市の報酬が安いといふことですか。

それには限らないと思いますが、全体に高齢化していますので、通訳者の方もヘルパーさんも皆さん高齢化すると思いますけど、若い方がどんどん関心を持って、関わっていただけるようになるというのが重要ですかね。

手話に限らず福祉への関心も若い子達減ってきていますので、業界全体にも若い人が一緒に関心を持って、専門職として或いは例えば手話に関しておっしゃった手話通訳者の資格も取って、専門で活躍してもらうのもいいですし、ボランティアで活動してもらうのもいいのですけれども、そういう方が増えて欲しいです。

ありがとうございました。

その他何かございませんでしょうか。

手嶋委員

今のことなのですが、手話通訳者の専任通訳者5名、コーディネーター1名でやっているのですが、専任が先ほど言われていたように、学校とか、病院、裁判所とか、警察など難しいところでは。

ただ5人で多いか少ないかという事なのですが、我々としては専任が増えてくれたらなといふことなのですが、先ほど言われた報酬とか、予算の面も色々大阪市もあるかと思えますけれども、それをどうにかアップしてもらいたいといふこと。

ただ、聞くところによれば登録者で多いほうがいいのではないかといふ声も聞くのですが、我々としては専任、専門性があり、聴覚障がい者が安心して何事も任せられ、解決までしてくれるといふことにおいては、専門・専任が増えれば良いなと思っております。

松端会長

5名は大阪市で5名といふことですか。

市全体で5名、コーディネーターの方1名。

多分人口の比率でいったら少ないですよ。

単純な比率でいうと、実際それでどの程度不都合があるのかといふことと、登録の方とのバランスで、登録の方がちゃんと上手くマッチングできていたらいいかもしれませんが、登録の方の数も少ない、それから専任の方でしたら先ほどおっしゃったように医療機関での通訳とか、専門性が求められるところで、専任の方が不足しているために、具体的な不自由があるとかになってくると、必要な数の確保みたいなことがいるかと思えます。

これはなんか議論になったのですか。

潮谷委員

その辺は、あまり議論されてないので、今後ちょっと詰めたほうがいいかなと、実態を踏まえて、人材という部分でどれ位あるのかということも詳しく分析が必要かなというふうに思いますので、今の意見を取り入れて取り組みたいと思っております。

松端会長

そのほかいかがでしょうか。

北野先生いかがでしょうか。

北野委員

1つは最後の手話通訳の件です。

やはり専任通訳者の確保の問題はとても大きいことで、賃金問題も出ましたから、どう確保するのか、それからやはり、幅広く若い人達にこの養成講座を受けてもらえるような広がりをどういう形で若い人を巻き込むのかということについて、検討していただけたらなと思いました。

それから、特に今回、気になったのは、資料4の障がい児の移行です。

この部分、すごく実は大阪市で今、私も関係している大阪市の関連する障がい児の施設の担当者の方に、実際お話を聞かせていただくことがあって、資料もいただきましたけど、ものすごく熱心に取り組んでいらっしゃる、かなり細かい資料もらって、これぐらい、つまりかなり、在籍年数長いといいますか、高年齢の方がいらっしゃる、その方の移行に向け、ものすごく、色んなプログラムをされたり、担当のコーディネーターの方が、すごく熱心にされていて、聞いていますと一つは措置の方が恐らく7割か、措置が利用契約に変わりますと、当然費用負担問題が出て、あと、虐待被虐待児が多いんですよね。

被虐待児の場合は、いわゆるその精神的な面を含めた、特別なケアが必要になってくると、それからあと、強度行動支配系の方はかなりシビアの方がいらっしゃる、その方々を支援してくださる大人の支援プログラムというのは、非常に少ないというか、限られているというところで、やはりそのところのこれから開発や展開が大事なところですよ。

ですから、もちろん施設の方々も頑張らないといけません、大阪市、特に国、それから制度の設計を少し考えていただきたいと思っていますところですよ。

松端会長

ありがとうございました。

今手話の話と、加齢児の年齢超過した方の話でした。

加齢児ではない、加齢者ですかね。

高齢の方もいらっしゃるのですよね。

ずっと18歳を超えて、20年以上そのままずっといらっしゃる。

ただ、そこでずっと慣れていた場合、その方自身は、特別不自由がなかったりするのですかね。

北野委員

実際にいらっしゃるのには子供の施設です。

そもそも住環境的な問題も含めて、やはり非常に不自然です。

松端会長

そうですね。

その方がじゃあ、入所施設に行けばいいかって、そういう訳じゃないですよ。

北野委員

これは日本で一番、福祉部の中でこれ大阪市が一番遅れているように表現されますけど、はっきり言って大阪市は基本的に地域で暮らすことを支援する活動等を一生懸命やっているから、なかなか地域で支援される仕組みが見つからない。

一方で、他の都道府県が少ないかというところ大人の施設に送っているだけ。

ですから、丁寧にされていることで非常にしんどい様子も起こっているということはちょっと理解すべきことである。

松端会長

そうですね、多分神戸市なんかで比較したら入所者の割合が全然違います。

そういう意味では、地域生活を丁寧にしているからこそ、余計に目立ってしまうということですね。

資料4の課題は本当重要な課題です。

はい、ありがとうございました。

資料5の方はいかがでしょうか。

それでは報告事項4つ目、障害者優先調達推進法に基づく大阪市の調達実績についてお願いします。

山本障がい福祉課長代理

<議題3（報告事項）「障害者優先調達推進法」に基づく本市の調達実績について 資料6 説明>

松端会長

ありがとうございました。

この市の業務のうちで、発注できそうなものを優先的に、障がい者の事業所等に発注すると

ということで、やはりコロナの影響で令和2年度は減っているのですかね。

令和元年も年度末、2月・3月の頃にも特に影響を受けており、年度末の仕事も減っているかと思いますが、この令和3年度については、コロナの影響の前の令和元年度の実績を上回るということを目指して、調達方針を立てて実施していくということですね。

何かございませんでしょうか。

相田委員

コロナのことについて、お話したいのですが、私、港第2に通っておりますが、やはりコロナの関係で、イベントとかも行けなくて、自粛しなあかんの、遊んでおられる方がいて、やっぱりずっとコロナの感染が広がっているの、ちょっと考えて欲しいなという疑問がありまして、みんなも限界もありまして、やっぱり一般の方も障がい者のことも労わってほしいなという疑問があります。

松端会長

相田さんも活動自粛になって、普段行っているところが、だいぶ行けなくなっているのですか。

相田委員。

2年ぐらい。

松端会長

そうですね。

去年と今年でね。

相田委員

一泊旅行も結局行けていなくて。

松端会長

それはショックですね。

そうやって自粛しているのに、遊んでいる人達もいるというのは確かに、それはよくニュースなんかでも問題になっています。

そうやって自粛しているのに、遊んでいる方がいると、気持ちの上ではちょっとすっきりしませんか。

相田委員

そうですね。



松端会長

なかなか、もう北野副会長に取り締まり隊長になってもらって、見まわり隊をしてもらって、皆さん、自粛しましょう。

相田さんはコロナワクチンを打たれたのですか。

ワクチンが普及していくと、11月位目途にもうちょっと緩和できるかなというような事も話題になっていますけれども。

もうしばらく辛抱しなくてははいけません。

ありがとうございました。

他いかがでしょうか。

よろしいですか。

全体のことで結構です。

よろしいですか。

では本日は報告が中心で、本日の議題は終了という事でよろしいですか。

では今のワクチン接種の話ができましたけれども、ワクチン接種の状況を事務局から話いただけますか。

高田障がい支援課長代理

私のほうからはワクチンの接種についてご説明いたします。

お配りする資料がないことをご了承願います。

まず、大阪市全体の接種状況ですが、公表ベースでご説明いたします。

最新の情報で、8月12日現在のものとなりますが、大阪市内の65歳の接種率についてですが、1回目接種済が82%、2回目の接種が76%となっております。

障がいのある方への接種につきましては、在宅やグループホームの方々の接種の状況は個別に行かれているケースが多いという状況のため把握が困難な状況となっております。

入所施設の接種状況を把握しておりますので、そちらの方をご説明いたします。

大阪市内で入所施設が20か所ございまして、8月現在で接種を希望する65歳以上の2回目接種済の率は98%となっております。

また、64歳以下の方で接種を希望する入所者全体での2回目接種済の率は78%となっておりますが、1回目の接種済の率が全体で92%となっておりますので、概ね入所されている方々につきましては、接種が進んでいると考えております。

また、施設従事者につきましては、2回目接種済が78%、1回目接種済が90%となっております。優先接種枠などを活用され、接種が進んでいると考えております。

ワクチンの接種状況の報告につきましては、以上となります。

松端会長

ありがとうございました。

市内全体でしたら、65歳以上の方で2回目が76%ということですね。

それに比べて、在宅の方・グループホームの方の把握は難しいという事ですけど、施設に入所している65歳以上の方は、2回接種98%ですか。

ほぼ希望される方は皆さんですもんね。

それから64歳以下でも78%。

高いですね。

それから従事者の方も2回接種が78%です。

ですから利用されている方も、スタッフの方も、両方接種しなくちゃいけないですけどね。

概ね順調に進んでいるということで、このままずっといくと、今年9月、10月位にはかなりの接種がほぼ終わりそうな感じですよ。

という事で何かございませんでしょうか。

安原委員

質問です。

従事者の方というのは、入所施設に従事者ですか。通所とか、私なんか関係するところ、放課後等デイとか多いですけど、そういうところは全然ということですか。

松端会長

実際通所のほうが出入りある。

入所の方は自粛しているのでそんなに外部との接触というのが、良いか悪いは別として、それほど無いのかもしれませんが、通所は利用者が通って来られる。

安原委員

実習先もそういうところが多いため、結構ちょっと出たりしていますので、どうなのかなと思いました。

宮川委員

よろしいでしょうか。

松端会長

はい。お願いします。

宮川委員

大阪府医師会の宮川です。

今のワクチンに関してですけれども、大阪市さんのご報告の通りだと思います。

大阪市さんの福祉課の方から、ワクチン接種課の方に話をさせていただいて4月から、65歳以上の高齢の方々の施設に関しては何とかしなくちゃいけないということで、このデータ通りだと思います。

実際、最終的に個別接種の形で、大阪市内の医師会、手上げしていただいて、医師会から直接施設の方に出向いて、ワクチンを打ちに行っていましたので、ほぼそれが、8月いっぱい完了したという報告を受けておりますので、その際は施設の職員の方々も同じように打つと、ただ、近所の先生方のところに直接行ってもらった方が良いという方の場合はそのまま来てもらって打ったということを含めて、ほぼ完了したと。

ただ、どうしても64歳5歳以下の方々なかなか進めてないところがあったんですけども、基本的に、その段階で、この6月ぐらいまで手上げしていただいているところの施設に関しては、ほぼそこも進んでいっているというふうに聞いておりますのでこのデータだと思います。

それから施設のスタッフはもう同様にすべて打っていますが、通所サービスはご指摘のとおりこれもずっと話がありました。

ただ、地域の医師会にお話していただければ、何とか対応していているというところだと思いますけどその話がなかったところはなかなか、進まなかったと思うんですけどもしかるべき時期に、それなりの話があったところは、個別接種で進んできているというふうには聞いております。

以上、ご報告させていただきます。

松端会長

ありがとうございます。

入所系については結構積極的に、通所に関しては手を挙げていただいて、接種希望ということであれば、多分色々な形で対応が出来るのかということでした。

ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。

ウェブ参加の皆さんもよろしいですか。

では、以上で、本日の案件が終了だと思いますけど。

松村部長が最後ですけれども、北野先生が一言必要だということです。

北野委員

相田さんがおっしゃった、障がい福祉の方が色々な活動を今、本当に自粛して、我慢して本当に大変な状態だったことは、我々よく分かっています。

一方で、おっしゃった若い一部の勝手な連中が色々勝手なこととして、ここは、私、障がい者の活動の立場から言うと、上手に言う必要あると思います。

と言うのは、若者全部を敵に回してしまうと、共に生きるという共生のイメージが湧かないから、若者の中でも一生懸命キープし、ちゃんと生活を自粛してやっている、多くの若者がいるから、その多くのちゃんとやってくれている若者と連帯したいと。

こっちのほうを強調して、私たちも我慢しているから、一緒になって我慢してくれている若い人たちと一緒に連帯したいと。

そういう事が出来ない一部の方々は困る、でも若者の多くの方と私達は連帯したいということで話した方が良くと思いました。

松端会長

確かにそうですね。

若い人はって言うてしまうと、溝ができ、壁ができ、でも、目立つ人はそういう人もいますけど、概ね皆さん、慎重に行動されていますし、大阪府内とか市で見たら、全体的によくコントロールできている方で、波なんかも早い時期に皆さんにアピールして、気を付けましょうとやっています。

共生で言うそうですね。

北野けしからんと言ったら、溝ができますもんね。

よろしいですか。

ということでその他いかがでしょうか。

よろしいですか。

では、この会議は以上でよろしいですかね。

どうもありがとうございました。

松村障がい者施策部長 <閉会のあいさつ>